



国公立大 前期日程試験 ～58 期生の姿～

2月25日(土)から国公立大学の前期日程試験が実施されました。本校58期生も、234名が出願しました。鹿児島大学には最多の147名が出願しました。以下に、出願に関する声を集めました。

- ・法律と町興しを関連付けて学びたい。
- ・地元で教師を目指したい。
- ・得意科目の生物の力を2次で発揮したい。

明確な目標や自信がうかがえます。もちろん不安を抱いている生徒もいますが、自分の希望をしっかりと見つめ、それぞれが覚悟を決めて本番に臨みました。また、個別学力試験より先に実施された、総合型選抜や学校推薦型選抜を受験した生徒にもコメントをもらいました。

- ・自分の考えを伝える面接に自信があった。
- ・探究の内容を受験に生かした。

強い希望と同時に、「強い自信」がうかがえます。こうした気持ちの強さも、後輩の皆さんは見習ってください。なお、総合型・学校推薦型選抜によって、現在26名が国公立大学に合格しています。私立大学も、早稲田大学や明治大学、青山学院大学などに合格しています。

国公立大学の前期日程の合格発表は3月1日(水)以降、順次行われます。吉報を待ちたいと思います。また、前期日程終了と同時に、中期・後期日程試験に向けて再スタートを切りました。卒業式という一つの区切りが過ぎましたが、まだまだ戦いは続きます。

進級に向けた準備を ～59・60 期生～

学年末考査が終わりましたが、油断は禁物です。3月の登校日は、クラスマッチ等を含めても10日間しかありません。現時点での予定では、4月は17日間です。高校入試期間や春休みなど授業がない日が多いのです。

また、この時期は「成績が低迷する」人が増加しがちです。これは過年度の模擬試験成績データを見ても明らかです。だからこそ、「主体的」な学習が求められます。今年度の学習内容を振り返り、定着度を確認しましょう。特に59期生は、この時期を「3年ゼロ学期」と捉え、「受験生」としての自覚を持ちましょう。また、6月以降は、部活動を引退した生徒は放課後自習に取り組みます。部活動に充てていた時間をそのまま学習時間へと切り替えるためです。その後は放課後課外へとシフトし、2次力を高めていきます。

ところで、高校1年生と2年生は、受験の実感がまだ強くありません。そこで必要なのが「数値目標」の設定です。1月模試の結果を踏まえて、「いつまでに」「どの教科のどの分野で」「何点」伸ばすのかを設定してみてください。前述のとおり、成績が低迷しやすい時期がやってきます。そこで踏みとどまり、主体的に勉強する意欲を引き出すためにも、具体的な目標設定は有効です。今年度の『進路指導室だより』で紹介した、「課題の分割」と「OODAループ」を振り返りつつ、「数値目標」への意識を持ちましょう。

「大学入学共通テスト」情報

まずは、59期生と60期生が受験する共通テストの違いを確認しましょう。「or」としているのは、1科目受験か2科目受験の区別があることを示しています。

	59期		60期	
一 日 目	地歴公	60分 or 60分×2	地歴公	60分 or 60分×2
	国語	80分	国語	90分
	外国語	80分	外国語	80分
	リスニング	60分	リスニング	60分
二 日 目	理科① 主に文系	60分	理科	60分 or 60分×2
	数学①	70分	数学①	70分
	数学②	60分	数学②	70分
	理科② 主に理系	60分 or 60分×2	情報	60分

国語や数学②の時間設定の変更には、内容の変更も含まれます。国語の場合は、大問数が4→5に増えます。数学②は、数学Cの分野が範囲に追加されます。そして「情報」が新設されます。

共通テストの特徴として、「読む量」が多いことが挙げられます。昨年度、59期生には「読む速さ」「理解する速さ」「考察する速さ」を意識するようお願いしました。「特別な対策」ばかりを求めてはいけないこともお願いしました。60期生は、完全な「過去問」が存在しないことも不安要素になるかもしれません。しかし、全ての理解や正解につながるのは、「語彙力」であり「計算力」であり「表現力」です。これらを高め、「圧倒的な基礎力」をベースに次の学年、そして受験に向かってください。

「なぜ教科書は分かりにくくて、授業は退屈なのか」

1年8組 担任 福永 幸成

先日、所用で山形屋の側を通ったら、なんとも言えない焼き芋の匂いに、思わず足を止めた。焼き芋屋の前には買い求める人たちが列を成していたため、面倒くさがりの私は買わずにその場を後にしたが、あの場所を通ったことのある人ならば、この気持ちをわかってくれるだろう。羨ましいことに、食べた人がいるのかもしれない。小さい頃から何度か芋を焼いたことがある。しかしあんなにも香ばしい焼き芋と出会ったことはない。そもそも芋の種類が違うのだろうか？それとも焼く機械が……あるいは本当に石で焼いているのか？しかもその石がそこら辺の石とかじゃなく、焼き芋に適する特別な石が存在するとか？このようなことは学校では教えてはくれない。自らの試行錯誤による経験の積み重ねと研究の成果がおいしい焼き芋として実を結び、長蛇の列を作らせるのだろう。

「自らに必要なものは社会に入ってから学ぶから、学校では社会で役立つことを教えてほしい」「高校で習った数学や古典文法なんて実社会で使うことはほぼないし、役に立つこともない」「学歴社会は単に知的な優位を競って、勝者と敗者とに分けているだけだ」このように、学校で学ぶよりは自らの経験の積み重ねの方が重要だという、経験重視の風潮が世間にはないわけでもない。現に、学校へは行かず全国を旅して回る、君たちと同世代のYouTuberもいる。私は彼らの主張や行動を否定するわけではない。人間は社会的な動物なのだから多くの人々と触れ合った方が良く、旅する中で得た経験や失敗は貴重な財産となるに違いない。だからといって学校で学ぶより全国を旅して回る経験が大事だとはならない。

ドイツの教育哲学者モレンハウアーは『忘れられた連関』の中で、「学校がなかった社会では、子供たちは普段の生活の中で周囲の大人と共に過ごすことで様々なことを学んできた。生活そのものが即学習であり『羊飼いの子は羊飼いになる』『農民の子は農民になる』ために必要なことの全てを学んできた。しかし、社会が発展し複雑になり、子供たちが親と違う生き方をするようになると、将来子供たちが必要とするものが周囲の大人と生活するだけでは十分ではなくなる。」と言うようなことを述べている。思い浮かべてほしい。5年前に無かった物や仕組みで現在身近にあるもの、あるいはその逆を……。AIによる代替可能性の高い職業とかも言われて久しい。最初の例だが、私がおいしい焼き芋屋を目指すのならば、弟子入りし修行を積み、自ら研究や研鑽を重ね日々精進し続ければ、ひょっとしたらおいしい焼き芋屋さんになれるのかもしれない(現実はそんなに甘いものではないが……)前出のモレンハウアーは学校の必要性を「経験によって子供たちが到達し難い部分、つまりこの世界がどうなっているのかということ」を、言葉や記号を使って子供たちに学ばせること」と述べている。確かにいくら全国を旅する経験を積んだとしても、「ことばがものをあらしめている」ことや「水が2つの水素と1つの酸素という原子が結合して成り立っている」こと、あるいは「自分が旅している地球そのものが自ら回転している」ことなどを理解できない。とここまで読んで、インターネットで検索すれば別に困らないと思った人がいるに違いない。これもよく言われていることだが、ネットの情報は玉石混淆だし、断片的で、体系性や系統性が無いものが多い。そもそも基本的な知識が無いのに「織田信長」と検索しても、「戦国」「安土桃山」「桶狭間」といった更に知らないワードが出てきて逆に非効率となる。何よりも知識が無いということは疑う術を知らないことなので、ネット情報を鵜呑みにしかねない。

モレンハウアーが言うように学校で学ぶことは、人類が長年かけて紐解いてきた自分たちが生きているこの世界の真の姿に触れることなのだ。教科書に書かれていることは簡単には理解できないし、すぐに役に立たないのは当たり前。それを教える授業がそもそも分かりやすいはずは無く、基本退屈なものであることは、理解できると思う。目に見える世界が全てではないし、正しいわけでもない。教科書を開くだけで、地軸の傾きや自転のスピード、世の中に雑草という植物は存在しないこと、全ての物質は原子が集まってできていること、家書が万金に抵ることなど、イメージーションを広げるだけで、短い人生ではとても経験することのできない多くのことを学び知ることができることを考えると、先ほどの退屈も当てはまらないのかもしれない。志操高き中央高校生諸君！今からの長期休みにどうかもう一度、自らの意志で教科書を開き、自分たちの生きているこの世界の豊かなそして真の姿と向き合ってください。

今でしょっ！

2 学年主任 久保 公人

「気持ちを引き締める」のはいつなのか

59 期の皆さん、3 年生になる準備は進んでいますか？これから 3 月にかけて自宅学習の多い時期に入ります。この時期の過ごし方が 3 学年のスタートに大きく影響するのは間違いありません。気持ちを引き締めていきましょう。

ところで、3 年生（3 年になろうとしている 2 年生）が「気持ちを引き締める時期」とはいつなのでしょう。私は、1 月、4 月、6 月、9 月だと思っています。1 月は新年になり受験の年を迎える時期、4 月は 3 学年に進級し本気度が増す時期、6 月は部活動が終わりいよいよ受験に専念する時期、9 月は最後の追い込みに入る時期です。

それでは、このどこかで気持ちを引き締めればいいのでしょうか。答えは「No」です。皆さんはこの 4 つの時期それぞれで気を引き締め、一つずつ上のステージに上っていくことが必要なのです。

最近、H-Ⅲ ロケットの打ち上げが話題になりましたが、多くのロケットは複数のエンジンを積んだ多段式になっています。効率よく加速して宇宙へ飛び出すには、エンジンの燃焼を数回に分けたほうが良いそうです。3 学年の加速も同じで、1 回の燃焼では思い通りの軌道まで自分を持ち上げることができません。1 月、4 月、6 月、9 月と効率よく加速して目的に達する必要があります。

壁にぶつかっているときこそチャンス！

ここまでの話を聞くと、「1 月の加速に失敗しちゃったよ」と考える人も多いと思います。確かに、早く取り組むほど成功の確率は上がりますが、まだまだ失敗ではありません。また、「1 月に気合い入れたけど、思うようにいっていない」と悩んでいる人も多いでしょう。「頑張ってるのにうまくいかない」これは失敗なのでしょう。

皆さんが自転車に乗っている時を想像してください。向かい風の中や上り坂を、前に進むのは苦しいですね。でも「苦しいと感じるということは前に進もうとしている証拠」なのです。例えば、苦しいとき自転車をこぐ事をやめたらどうなるのでしょうか。当然、自転車は後ろに下がってしまいます。その場所に止まっている状態は、止まろうとする努力をしているから止まっていられるのです。そして、その我慢を続けていけば、必ず追い風は吹きます。じっと耐えて追い風を待たせられるかが受験生にとって勝負の分かれ目になります。

今でしょ！

人生の中には踏ん張らなければならない時期があります。高校 3 年生はまさにその時期です。「いつから始めようか」などと言っているのはいつまでたっても頑張れる時期はやってきません。「明日から始めよう」、「3 年になったら」、「部活動が終わったら」、「夏休みになったら」……。加速する時間はどんどん短くなっていきます。

少し前に某大手予備校の講師が、「今でしょ！」という言葉が流行させました。やることを後回しにしては前には進めないという事です。そこで皆さんに聞きたいと思います。

「59 期の皆さん、いつから夢に向かい始めますか？」